

日本保健物理学会シンポジウム I

福島事故後の内部被ばくの課題の解決に向けて –不溶性粒子と短半減期核種 内部被ばく影響評価委員会

- 日時：2018年3月19日（月） 13:30–17:00
- 場所：東京大学 工学部2号館212講義室
http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_04_03_j.html

- 趣旨：

内部被ばく影響評価委員会では、福島原発事故後の内部被ばくに関する諸問題の中で、線量評価方法（摂取した放射能から線量を評価するまでの方法）に関する課題について取り組んできました。特に、比放射能の大きい不溶性微粒子（いわゆるセシウムボール）を吸入したときの線量評価方法や影響について、検討を行ってきました。

第一部では、事故後の内部被ばく線量評価に関する現状のほか、委員会メンバー以外から演者2名をお招きして、不溶性微粒子に関連するトピックについてお話し頂きます。第二部では、不溶性微粒子の吸入による内部被ばくの線量評価や影響に関して報告を行うとともに、事故直後に存在したテルル等の短半減期核種による内部被ばくに関しても報告を行います。第三部では、第一部、第二部における発表内容を中心とした総合討論を開催します。ご興味のある方は奮ってご参加ください。

- プログラム：

13:30–13:40 開会挨拶 吉田 浩子（東北大：企画委員長）

【第一部】

座長：甲斐 倫明（大分看護科学大）

13:40–14:00 福島事故後の内部被ばく線量評価の現状
石川 徹夫（福島医大）

14:00–14:25 福島事故後の不溶性粒子の検出の地域分布と拡散予測
森口 祐一（東京大）

14:25–14:50 住家内での再浮遊エアロゾルと作業者のWBC測定例
吉田 浩子（東北大）

14:50–15:00 （休憩）

【第二部】

座長：石川 徹夫（福島医大）

15:00–15:25 不溶性粒子の吸入による内部被ばく線量の評価
真辺 健太郎（原子力機構）

15:25–15:50 不溶性粒子の内部被ばくの影響をどう考えるか
甲斐 倫明（大分看護科学大）

15:50–16:15 短半減期核種の内部被ばく

山口 一郎 (保健医療科学院)

16:15-16:25 (休憩)

【第三部】

16:25-17:00 総合討論

座長：甲斐 倫明 (大分看護科学大)

主催 一般社団法人 日本保健物理学会

共催 一般社団法人 日本放射線安全管理学会

協賛 公益社団法人 大気環境学会 (予定)、日本エアロゾル学会

参加費 正会員 (日本放射線安全管理学会正会員を含む) 2,000 円

学生会員 1,000 円

非会員 4,000 円

事前申込：参加ご希望の方は、資料準備の都合により 2018 年 3 月 16 日までに、日本保健物理学会事務局 (exec.off@jhps.or.jp) へメールにてお申し込みください。メールには、氏名、所属、会員種別 (正会員、学生会員、非会員) を明記してください。なお、当日の参加も受け付けますが、配布資料がない場合がありますので予めご了承ください。

以上